

町政を問う



原 秀男 議員

町の基幹産業である

林業の再生について

(一) 杉の立木蓄積量について

議員 下仁田町の林業についてお尋ねしますが、その前に現在の状況をお話ししたいと思います。この数十年間、木材自由化の波と、建築様式の大変な変化により、大変な凋落傾向にあり、治山対策もままならず、大災害も起こりかねません。これだけの森林資源をかかえながら、活用できない

これは誠に残念です。まずは、町全体の杉立木蓄積量について、お伺いします。
産業振興課長 およそ328万立方mです。
議員 県内市町村での順位はいかがですか。
産業振興課長 高崎市が一位で、336万立方mで、下仁田は二位です。
議員 高崎市は旧榛名町

(二) 町内の杉伐採量について

議員 それだけあって、年間の伐採量はどのくらいでしょうか。
産業振興課長 ほとんど下仁田町森林組合が伐採しますが、約1万4千立方mだそうです。
議員 そうしますと、伐採植林に何百年かかるかわかりませんか。そのような状況と、今の価格では、山林所有者にお金が還りません。
と旧倉瀬村を含んでの量です。単体で考えますと下仁田の量は、圧倒的です。

議員 その現状を視て、どうお感じでしょうか。
町長 下仁田も以前は、林業の町として大変栄え、大きな産業の役割を果たして来ましたが、価格の低迷は非常に残念です。この現状を打破していくには、国策としての林業政策に大きな期待を寄せています。

(三) 将来の木材需要の掘り起しについて

議員 そこでご提案です。最近新しい木造建築工法として、CLT工法というものが日本に入ってきており、林

ンバーの略語であり、直交集成板の意味であります。
従来の集成材は繊維方向に平行に、貼りあわせていますが、これを繊維方向に直交して貼りあわせるといってもいいです。これだけでものすごい強度がでるということです。北米やヨーロッパではこれを構造材とした木造10階建のマンションがどんどん建設されているそうです。
よって木材の大量消費がみこまれます。このような工場誘致、あるいは町で取り組んでいかれたら、どうでしょうか。

町長 このCLT事業につきましても、この数年で非常に希望のものと注目をされている。この工法により、コンクリートにも優り、火災にも強いということ、国を挙げて、政策の中に取り入れようというところがございます。町の大量な杉を考えた場合、なんとかこの近隣地域でやっていく方向を、研究していく必要があると考えています。

CLT工法のイメージ

